

## コロナ禍——新たな教育体制への挑戦

岡山商科大学学長 井尻 昭夫



令和二年度が間もなく終わろうとしています。コロナ禍により今年度は入学式が中止となり、新学期はゴールデンウィーク明けから、遠隔授業で始まりました。六月以降は感染拡大状況に応じて、

対面授業と遠隔授業を併用したり、遠隔授業のみに切り替えたりと授業形態を工夫しながら、後期までの授業を無事終えることができました。

今回の突然の「事件」により、大学の授業は従来と対比して新たな局面を迎え、先生と学生双方にとっても新しい姿勢が求められたといえます。ひと昔前とは比べられないほどの情報社会の進展に伴い、教育の在り方が一変したと感ずる今日この頃です。

この1年間だけを振り返ってみても本学の情報教育環境は大きく変わってきました。対面授業から遠隔授業に切り替わっても、教育レベルが下がることがあつてはなりません。遠隔授業を円滑に進めるため、キャンパス全域をカバーできるWiFi設備の整備、学生への貸出用タブレットパソコンの購入、オンライン教育システムの導入をはじめ、さまざまな対策を講じてきました。また先生方に対しては、遠隔授業を効果的に行うための講習会を開催するとともに、パソコン用のカメラ、マイク等の機器の整備、Zoomの遠隔授業専用アカウントの購入などにより、条件整備に努めました。

従来の対面授業から遠隔授業への切り替えは、本学では十七年前から慶應MCCから配信される社会人講座「夕学講座」を岡山県で唯一本学が受信し、本学学生のみならず広く社会人に開放してきており、さらに十年前からは日本証券業協会から遠隔講義を受けていましたので、実に速やかな対応ができた。

ました。

しかしオンライン授業となると、これまでの対面授業とは異なる環境での講義であることから、先生方には多大なご苦労をおかけしました。教える側にとつては、画面を通しての授業であるだけに、自宅待機の学生のみならずご家族の方々にも見られているという意識が働いていたようで、十分な授業準備と手抜きできない授業姿勢が求められ、それなりにご苦労があつたようです。

他方学生にとつては、対面授業では遠慮がちな学生も周りの学生に気兼ねなく伸び伸びと授業を受けることができたようで、遠隔授業のメリットを見出したことが報告されています。また、遠隔授業ではレポートを提出する機会が増え、自ら課題解決に向けて挑戦する姿勢が見られるとともに、画面を通して先生と一対一となることから、対面授業の時よりも真剣に授業に取り組んでいる、という報告も受けています。長引く遠隔授業のために、勉強する姿勢ができたのは、予期しない成果であるようです。

本学の特色の一つに、留学生が多く在籍していることが挙げられます。対面授業が本格化しても留学生はなかなか入国がかなわないという状況が続きました。対面授業を同時に配信することで、日本の授業をリアルタイムで受けさせることができました。

授業形態の切り替え以外に、もう一つ大きな問題が起きました。それは、コロナ禍のあおりを受けて、家が計が急変したり、アルバイトができなくなったりして経済的に困窮する学生が出てきたことです。国の施策を十分に取り入れるほか、大学独自の授業料減免制度を創設するとともに、授業料の納付期限の延長などにより、学生への支援を行っているところです。

令和3年度はどんな年になるか、コロナ禍が一日も早く終息することを祈念してやみませんが、明日の社会を担う学生諸君に向けての教育であることから、これまで以上に本学に課せられた使命を強く認識し、新たな大学づくりにまい進していきたいと考えています。

## CONTENTS

### <商大トピック>

- 中国税理士会との協定の締結について ●岡山東ライオンズクラブから防災倉庫
- ヤクルトスワローズ 蔵本選手来訪 ●ブログちょっと見。～商大ブログから～

### <情報アラカルト>

- リフレッシュダンス教室 ●ボウリング部優勝報告
- 家計の急変等があった学生への支援について ●貸し出し用タブレットPCの整備

# 商大トピック

## Topic 1

### 大学生と広島国税局長との座談会について

2020.10.26

2020年10月26日に山陽新聞社で実施された「大学生と広島国税局長との座談会」に、経営学部経営学科の会計専門コース4年次生である八木天都さん(川本ゼミ)が参加しました。広島国税局では、毎年11月11日から11月17日までの「税を考える週間」にあわせて「大学生と広島国税局長との座談会」を実施し、その様子を新聞に掲載しております。座談会は岡山と広島で交互に開催されており、2年ぶりに岡山で開催された今回の座談会には、本学の八木さんを含む岡山県内の大学生3人が出席しました。会計専門コースの学生が岡山で開催される座談会に参加するのは、2016年と2018年に続き今回が3回目です。今回の座談会において八木さんは、会計専門コースで学習した会計学の知識をいかに、日本の租税制度に関するところからについて自分の意見を積極的に述べることができました。座談会の内容は11月11日の山陽新聞に掲載されていますので、本学学生の活躍をぜひご覧ください。(経営学部 教授 川本和則)

## Topic 2

### 中国税理士会との税理士特設講座に関する協定の締結について

2020.11.12

岡山商科大学では、会計学と税法に関する教育により、税理士資格取得の門戸を広げてきました。その結果、税理士として活躍する卒業生は100名以上にも上ります。卒業生の税理士で組織される「商税会」では、会計のエキスパートを目指す後輩へのサポートをしています。また、全国の税理士会では、税務の知識を、より専門的・体系的に伝えるため、単位取得できる「寄附講座」の展開を進めています。中国税理士会からの提案により、岡山県内の大学としては初となる「税理士による租税講座」を、2019年度から開講しています。



岡山商科大学と中国税理士会との間における「税理士特設講座に関する協定」締結式

そして今回、岡山商科大学大学院法学研究科において、税理士の方々から税務に関連する法的諸問題について学ぶ機会を設け、法律家としての専門的な知識をさらに高めていただくことを目的とする協定を新たに締結しました。2021年度から税理士特設講座として開講します。

2020年11月12日に行われた協定締結式では、井尻学長が「中国税理士会とは2003年から特設講座を開設するなど密接なつながりをもってきている。寄附講座もご提供いただいております。学生は、理論だけでなく実務についても学ぶことができます。こうした連携のこれからの発展にも期待している」と挨拶をいたしました。

中国税理士会の海老澤会長から「これまでの税理士特設講座では、租税訴訟へ補佐人として出廷するために必要な法律を学ぶことができた。今回の特設講座では、税理士業務にかかわる法律問題を学問として学ぶ機会をいただくことができる。良い成果を上げていきたい」とのご挨拶をいただきました。

この調印式については、2020年11月14日の山陽新聞でも紹介されました。(総務企画課)

## Topic 3

### 岡山東ライオンズクラブから、防災倉庫の寄贈を受けました

2020.11.12

岡山商科大学は、平成15年に岡山県と「災害時における被災者支援ボランティアに関する協定」を、平成26年には岡山市と「災害時における避難所の指定等に関する協定」を締結するなど、災害時に地域の支援を行うことができる体制を整えてきました。平成30年7月西日本豪雨災害に際しては、避難所を開設し、一般市民9人、学生5人の受け入れを行いました。



こうした中、岡山東ライオンズクラブから、防災倉庫を寄贈したい旨の提案を受けました。防災倉庫は、災害時に備え、水や食料、防災用品を備蓄することができ、大学と町内会等が共同で使用することができるものです。

贈呈式には、岡山東ライオンズクラブから妹尾隆弘会長、井上賢幹事、池田紀久男PRMC委員長をはじめとして18名の方が、地域を代表して吉本賢二岡山市議会議員、田淵薫世が瀬町内会長にご出席をいただきました。本学からは、井尻昭夫学長、田中康秀副学長、吉田信学生部長、三浦一男事務局長、学生を代表して、田原将嗣大学祭実行本部委員長が出席しました。

贈呈式では、井尻学長から「本学は西日本豪雨災害の折にはボランティア活動も行うなど、災害に対しては積極的に対応している。災害が無いことが一番であるが、課せられた役割を果たしたい」と挨拶がありました。妹尾会長からは「岡山東ライオンズクラブ60周年にあたり、県内4大大学目となる貴学に防災倉庫を寄贈できたことは喜ばしい。岡山から地域への貢献活動を行ってほしい」とのご挨拶をいただきました。吉本市議からは「津島学区には座主川の北側に4,000世帯、南側に5,000世帯が暮らしている。岡山商科大学に防災倉庫が設置されたことはありがたいことで、心より感謝申し上げたい」とのご挨拶がありました。(総務企画課)

## Topic 4

### ヤクルトスワローズ・蔵本選手来訪

2020.12.10

プロ野球オフシーズンの12月10日(木)に本学OBヤクルトスワローズ蔵本治孝投手(背番号99)が母校を訪れました。蔵本投手はプロ野球生活3年目を終え、1軍には定着できず2軍生活送っており、「来シーズンに向けて自主トレーニング、来年2月からのキャンプで必死で取り組んでチャンスを掴み、1軍投手ローテーションに入れるようにしたい。来年の12月には良い報告ができるように頑張りたい」と学長に報告と挨拶がありました。



学長からは本学卒業生、在学生皆が応援していますと激励されました。なお、蔵本投手と同期で元楽天の近藤弘樹

投手が今年からヤクルトスワローズへ移籍(背番号52)。併せて2人の活躍を期待しましょう。(硬式野球部監督 仁科昭宣)

## Topic 5

### 野村證券の寄附講座を開催

2020.12.1

野村證券岡山支店からファイナンシャルプランニングに関する寄附講座をご提供いただき、2020年12月1日から6週に渡って、日々刻々と変化する金融市場動向を分かりやすく解説していただきました。

本学では、ファイナンシャルプランニングに関する科目を体系的に設置し、金融リテラシーを基礎に、ファイナンシャルプランニングに関する専門知識および実務スキルの修得を目指しており、多くの学生が授業を履修しています。授業で学んだ知識を現実の市場動向に照らし合わせることで、より深い理解ができることから、「グローバルマーケット分析」を中心としたタイムリーなマーケット情報を提供していただきました。

野村證券が発行する『Nomura Weekly(野村ウィークリー)』等を教材として使用し、オンラインによる質の高い講義が展開され、金融機関等への就職を目指す学生が参加して理解を深めていました。実学を学ぶ良い機会として、次年度も継続してご提供いただきたいと思います。

(商学科ファイナンシャル・プランニングコース長 海宝賢一郎)

## Topic 6

### 第25回岡山生命倫理研究会の開催

2021.2.13

2月13日(土)、第25回岡山生命倫理研究会を本学社会総合研究所共催のもと開催いたしました。コロナ下ということもあり、現地会場とオンラインのハイブリッド形式での開催となりました。



今回は、午前の個別報告では、生殖補助医療、LGBT、認知症、事前指示書に関する話題を扱いました。休憩を挟んで、午後には「輸血拒否」問題のシンポジウムを設定しました。

輸血拒否問題といえは、宗教的理由による拒否について、とりわけエホバの証人がクローズアップされることが多い(むしろほとんど)でしょう。研究会当日は、エホバの証人のホスピタリティンフォーム・サービスより三浦棟にオンライン出演いただき、誤解なきよう(輸血は拒否するが治療は望んでいる旨)、エホバの証人の立場について説明を受けました。その上で、ドイツの学説判例の動向の紹介(岡山大学院山下教授)、医療者・仏教者の視点からの問いかけ(本学:村岡客員教授)、および通説的な判断能力の見解に対する私見の展開(本学:栗屋教授)がなされ、最後には、これらを総合した非常に活発な質疑応答がありました。ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

研究会としてはまずまず成功したと評価いただけるかと嬉しいのですが、実際にはスムーズに進行できない場面がありました。事務局スタッフが少人数であることから、ハイブリッド開催は負担が大きく、次回に向けて課題も残りました。(法学部 教授 穴戸圭介)

## Topic 7

### 九州弁護士会連合会国際委員会における講演

2021.2.27

九州弁護士会連合会国際委員会(日時:

2021年2月27日(土) 15:30~16:30、於オンラインで「今後の日韓法学交流について」というテーマで講演をさせて頂きました。現在、コロナのために国際学術交流は、その大部分が停止している状態です。そのような状態のなかで渡韓をし、日韓の学術交流を推進する者の一人として、韓国の現況、在外研究の様子、そして今後の日韓法学交流について何か伝えられることがあるのではないかと考え、今回の大役を引き受けさせて頂きました。

韓国の現況については、入国審査や2週間の隔離生活、現在韓国で実施されているコロナ対応を自らの体験と諸法律をもとにお話させて頂きました。また、在外研究の様子として、日々の研究はもちろん、国際フォーラムでの報告等を通じて、交流を深めていることを紹介しました。そして、今後の日韓法学交流に関しては、韓国における日本法研究への意識の変化

を指摘し、日本側からの積極的な情報「発信」と「獲得」が必要な時期にあることを伝えた上で、韓国語を駆使できる法学者及び法実務家の人材育成が急務であることを呼びかけました。

今回の講演が、近い将来必ず再開する日韓法学交流の懸け橋になれば幸いです。

(法学部講師 鬼頭祐紀)

## Topic 8

### 令和2年度岡山商科大学学会主催懸賞論文の受賞者決定

令和2年度の岡山商科大学学会主催の懸賞論文の募集を行いましたところ、法学部から1件、経済学部から1件、経営学部から3件の合計5件の応募論文がありました。

過去の例をふまえ、各学部の教員の協力のもとに厳密な審査をおこない、それにもとづき2月15日の学会運営委員会におきまして審査結果のとりまとめを行いました。令和2年度の学会懸賞論文応募作品の審査結果は、優秀賞が1件ありましたが、最優秀賞と佳作は該当なしとなりました。以下に優秀賞の作品について紹介いたします。

賞名	氏名 (学籍番号)	論文 タイトル	学部	指導教員	出身校
優秀賞	山本真輝 (320171221264)	平均寿命の上昇と退職時期の延長に関する分析— 一世代重複モデルを用いた考察—	経済	井尻裕之	関西高校 (岡山)

(岡山商科大学学会)

## ブログちょっと見。～商大ブログから～

### 宍戸ゼミ「基礎演習(2年)」の学生からのレポートです。

昨年12月の宍戸ゼミ(基礎演習2年)では、10月に完成した岡山県警本部庁舎を見学させていただきました。見学内容については、紹介ビデオの視聴→通信指令室・交通管制センターの見学→人事採用の説明→質問書回答の順で行われました。

特に通信指令室と交通管制センターは、普段見ることのできない場所ですので学生のテンションがかなり上がっていました(\*^\_^\*)

通信指令室では1日に約500件ほどの通報があり、その通報情報とパトカーの現在位置が大型スクリーンに瞬時に投影されます。その結果、前システムよりも効率的かつ迅速に運用でき、各関連部署と情報共有し警察官を現場へと臨場させることが可能になったそうです。実際、見学中にも何件か通報があり、担当の方たちがバタバタと忙しそうにしておられました。

交通管制センターも新庁舎に移って以来、県内バラバラにあった7つのミニセンターと交通状況について共有でき、集中制御によりさらなる交通の安全確保と円滑化を図ることができるようになったそうです。また岡山県警で運用中である2種類の新交通管理システム(公共車両優先・緊急車両優先システム)についても説明していただきました。

(ラジオでよく耳にする交通状況を提供する日本道路交通情報センターって常駐しているんですね…)

見学の影響を受けてか採用説明会では熱心に話を聞く学生が多かったような…。

事前学習において出た疑問にも丁寧に回答くださいました。

今回、岡山県警の方々にはコロナ禍のさなかであるにも関わらず、学生に細やかにご対応いただき、たくさんの質問にもお答えいただきまして、ありがとうございました。(法学部 2年 猪野電平)



### 【犯罪被害者支援サークルつぼみ】加藤裕司さんにご講演いただきました

2020年12月2日の講演会では、加藤裕司さんをお招きしました。平成23年9月に突然ご長女を会社の元同僚の手によって、その命を奪われた事件についての詳細や、当時の心情など多くの貴重なお話しをして頂きました。(聴講者に耳の聞こえない人がいることから、聴講者と十分な距離をとり換気の上、マスクなしでお話いただいています)

大事なご長女を理不尽に奪われた親としての苦しみや悲しみは、聴講しているこちらも胸が詰まって苦しくなるほどに感じられました。しかし、天国のご長女に「お父さん頑張っているね」と思ってもらいたい、同じ苦しみを他の人に味わって欲しくないとお気持ちで、とてもお辛いだろうに、私達にとっても冷静に、克明に、お話を下さって、なお「一番大事にしたいのは感謝です」とおっしゃる姿勢に感動しました。

また、ご講演の中で印象に残ったお話で、「犯罪を防ぐのではなく、犯罪を生まない社会をつくるのが大事」というお話がありました。加藤さんは、犯罪を生まないためには人間形成過程における「環境」への配慮と、一人ひとりの少しの優しさや少しの勇気をもって1歩を踏み出すこと、後になって「あの時なんでやらなかったんだろう、手をさしのべなかったんだろう」と後悔しないように、今できることを精一杯することで社会は良くなっていくとお話くださいました。見て見ぬふりでなく、「救う側に立ってください」とのお言葉がとても印象的でした。

今回の講演をお聞きして、自分の生活について振り返り、いま本当に必要なことをしているのか、今を精一杯生きているのかを、改めて考えさせられました。(法学部 3年 小川真毅)



### 法学部の授業:中国財務局の方にご講演いただきました

2020.10.5

はじめまして。

法学部の「税法」を担当している坂巻です。

この授業では、いつもは消費税・所得税・法人税などの税について学んでいますが、10月5日(月)第2回は、中国財務局岡山財務事務所の出張講演でした。

本学では、現在も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら対面授業を行っていますが、この授業は履修者が100名以上のため、ウェブ会議システムを使用して開催しました。

テーマは「金融リテラシーと金融機関の役割」です。お金についての正しい知識を学びました。税法を学ぶには、お金についての知識が必要です。たとえば、「利子」と「配当」の違いを知っている必要があります。そこで、金融機関を監督している財務局の方からお金や銀行の役割などについて教えていただきました。そして、財務専門官というお仕事があることも知りました。

学生たちからは、下記のようなコメントをもらいました。

- ・最初聞く前は仕組みとかにぴんとこなかったところがあったが、聞いてとてもわかりやすかったです。
- ・今回はありがとうございました。安全性と収益性は両立しないということとても頭に残りました。
- ・積み立ての長期投資に興味がありました。
- ・貴重なお話をありがとうございました。
- ・金融のことがよくわかった。投資のことは自分にはまだ早いかと思っていただけでも今回の講義を聞き、1日100円、毎月1000円くらいでも始められると聞いた時はやってみようと思った。(法学部 准教授 坂巻綾望)

こっそり舞台裏をお見せいたします。



@坂巻の研究室

タイムリーな  
キャンパスライフは  
商大ブログで。



## 叙勲について

令和2年11月3日に発令された令和2年秋の叙勲において、学校法人吉備学園の杉山誠一事務局長が瑞宝小綬章を受章されました。吉備学園では、昨年の岡山商科大学・井尻昭夫学長、大崎紘一副学長、三浦一男大学事務局長に続く叙勲の受章となりました。

杉山事務局長は、岡山県庁において県の発展に尽くすとともに、美作県民局長、農林水産部長、政策審議監等の重職を歴任されました。また、農政企画課長時代の平成14年には地元農産物の地産地消を推進するためキャンペーンソング「地産地消おかやまの唄」を手掛けられたとのこと。

「現場主義に徹することを常に心掛け、前例にとらわれることなく柔軟な思考と姿勢で物事に取り組んできたことが受賞につながったのか」と県庁時代を振り返るとともに、受章を糧に今後ともささやかなりとも社会のお役に立てよう頑張りたい」と抱負を語られました。(法人事務局)

## 令和2年度総社市市民提案型事業について

2019年住民基本台帳人口移動報告では岡山県下27市町村のうち転入超過となったのは3市5町1村のみという中で、総社市は3年連続で県下最多の人口増加となっています。ところが昭和学区では市勢の発展を活かせず2008年からの10年間で地区人口21.8%減、65歳以上人口22%増と人口減少や高齢化率の上昇が続いています。

経営学部高林宏一研究室では2013年より地元金融機関と連帯して小学生向けのファイナンシャル・プランニング教育活動を続けてきましたが、「平成30年7月豪雨」で被災したゼミ生の要望から、災害復興活動への参加や寄付活動だけではなく、地域コミュニティ支援や人口増加に向けた助言と具体的な活動支援がおこなえないかとの申し出があり、卒業研究の一環として3、4年ゼミ生が共同して研究室卒業生、総社周辺の外国人コミュニティ、老人会・町内会・NPO団体に呼びかけ、翌令和元年11月に「異文化交流会を通じた昭和地区まちひとの活性化活動」のテーマで異文化交流会を開催し出展者を含めて約400名の参加者を迎えることが出来ました。

この活動を継続発展させるため令和2年度総社市市民提案型事業へ①国際交流文化祭の開催②地域人間知財（農業、自然、水産物等）の調査③ホームステイを通じた外国就労者家族の誘致を事業目的とした申請を行い採択されましたが、令和2年1月クルーズ船の感染報道から始まった新型コロナウイルスの爆発的流行と行政指導もあり大人数・市外若者・外国人を集めた異文化交流会や移住等行事も開催となってしまいました。ただFacebookやInstagram等のソーシャル・ネットワーク・サービスでの広報活動や大学、昭和地区住民それぞれの呼びかけによりインターネットでの遠隔交流会は昨年10月に開催でき予想以上の参加者がありました。

来年度以降については、新型コロナウイルスの状況にもよりますが令和元年に開催した大規模集客での交流会は難しく、②の活動を中心にリモートで行うための環境構築や新たな広報・開催手法や解決策を総社市、岡山市で探索していきたいと考えています。(経営学部 教授 高林宏一)



## 「2020ベストリーダー賞」授賞式を実施しました

2021年1月25日(月)、図書館2階にて、「2020ベストリーダー賞」の授賞式を実施しました。

図書館では、2020年度より、毎年4月～12月の期間で図書館の図書をよく利用し、学力と教養の向上に努めたと認められる学生を表彰するために、「ベストリーダー賞」を設けました。

学生の読書意欲を喚起すると共に、読書習慣を身につけ、学習能力向上に繋がることを期待して、企画しました。

各学科ごとに1～3位を設けており、2020年度は、16名の学生が受賞しました。

今回の授賞式は、新型コロナウイルスの影響を鑑みて、代表者1名(法学科部門 第1位 濱田遥さん(4年))のみ対面での授賞式を執り行い、他の15名には表彰状を郵送しました。(受賞者一覧については、「岡山商科大学ブログ」および図書館ホームページの「図書館ニュース」にて、掲載しております。)

この受賞をきっかけに、しっかりと身につけた読書習慣を継続してもらい、読書を通じて、自身の知識や、価値・世界観を広げ、そして人間力を高めていただけたらと、図書館員一同願っています。

なお、図書館では、学生の皆さんが手軽に本を手にとって見てもらえるように、様々な特集コーナーを、図書館2階カウンター前に設置しています。学生はもちろんのこと、教職員そして一般の方も楽しめるような内容にもなっています。

来年度からも、「マンガコーナー」等、「図書館に行きたい」、「図書館は楽しい」と思っただけのような様々な特集コーナーをどんどん設置していく予定です。

また、「図書館でこんな図書やコーナーがほしい」、「図書館でこんなサービス・イベントを実施してほしい」、等のご意見があれば、気軽に図書館員にご相談ください。(図書課)



エッセー  
数珠つなぎ

## 『教養演習』風景 ～ディベート大会を通じて考えたこと～

経済学科 講師 池田昌弘

感染症のまん延に伴い、2020年度は多くの授業がオンラインで行われることとなりました。1年次必修科目である『教養演習』も例外ではなく、スタディスキルの育成と向上を目的とする実践型科目はすなわち、「読み・書き・発表」のうち「発表」はなかなか機会を設けられないまま前期が過ぎました。そうしたこともあり、対面授業が本格的にスタートした後期は人前で自分の意見を話す「発表」を軸に演習を進めましたが、その一環として11月に國光ゼミと合同でディベート大会を開催しました。テーマは「高齢者の免許、自主返納について」というもので、学生にはA.自主判断に委ねるべき(肯定側)、B.75歳以上は強制的に免許停止にすべき(否定側)の双方の意見を吟味してもらいました。これは高齢者問題の一つとして昨今話題になっているトピックですが、18～19歳の皆さんにとっては身近に感じる事が難しいようでした。ただ、実際に運転している学生や祖父母が運転をしている学生の話や聞くと、「対向車線に高齢運転者がいると怖い」「祖父の運転は安全で信頼できる」と何かしら個人的な見解を持っていることが分かりました。

私個人の思いとしては、いかなる課題に対しても「自身の身近な経験」とひもつけて自分の意見を形成してほしいと思います。というのも、さまざまな問題や課題を身近なものとして捉えることで当事者意識が芽生え、課題解決に向けた考えを導き出すことができますし、主体的に学び考える習慣がつくことで答えの見えない将来的課題にも直面することができるようになるからです。

現在、私は過去の人々の開発とそれに伴う諸問題について歴史史料と経済理論をベースに分析を進めております。抜本的な開発には行政・政府の協力が欠かせませんが、史料を見ていると、住民に近い行政官吏は多くの課題に対してさまざまな工夫を凝らす一方で中央政府は何とものめはすれな対応をしていることが多いのです。現場感覚と情報量の違いがその差を生み出しているのですが、いかに当事者意識を持ちつつ専門知識を活用することが大事なのか、改めて気が付かされました。

さて、本題のディベート大会ですが、池田ゼミは残念ながら敗北という結果になりました。これを良い経験として、学生には「発表」のスキルを2年次の『基礎演習』で磨いてほしいと思います。

2006年7月の学報第84号から、長きにわたりご連載をいただいております本学第17期卒業生で江戸川乱歩賞作家の石井敏弘先生による「作家の視点は」前号をもって連載を終了いたしました。これまでのご寄稿に深く感謝申し上げますとともに、先生の今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

## 2020年度 授業評価アンケートによる「GP教員」選出

2020年度は、新型コロナウイルス感染症で、学生、教員は、対面、オンライン、併用授業と新環境下での講義を実施しました。双方にとってパソコンを使用している講義が多く、社会科学系の大学である本学でも教育面でのICT化は進んだと実感しています。

学生が受講した講義について授業評価アンケートを2019年度からWEBで実施するようしましたので、本年度も前後期通じてアンケートの実施ができ、前後期各期の「GP教員」を従来通りのルールで以下のように選出できました。

**前期** 法学部法学科加藤摩耶准教授、経済学部経済学科熊代和樹

講師、経営学部経営学科陳恵貞講師、経営学部商学科松浦英佐子教授、非常勤講師朴慧淑先生

**後期** 法学部法学科加藤摩耶准教授、経済学部経済学科韓雲冬准教授、経営学部経営学科岸本雅之教授、経営学部商学科天野雅敏教授、非常勤講師岡本幸男先生

2021年2月25日開催の全学教職員会議で、前期GP教員各位から講義内容について発表いただきました。オンライン授業、併用授業での講義方法についての新しい取り組みをご発表いただき、出席者全員良い研修になったと感じています。(副学長 大崎統一)

## IR講演会「IRの新潮流～ESG投資について～」(サマリー)

2021.1.26

去る2021年1月26日(火)に岡山商科大学 社会総合研究所 産官学連携センター主催の「IR講演会」(オンライン・ライブ)が開催されました。

冒頭には、社会総合研究所 海宝 賢一郎所長のご挨拶、閉会には大崎 統一副学長のご挨拶がありました。このIR講演会は、2014年から秋の大学祭で開催していた「学生と投資家のための会社説明会」と題するイベントを継承するもので、通算7回目となりました。2017～19年には毎年11月下旬に開催していましたが、昨年は新型コロナウイルス感染拡大のため、リアルなIR講演会が開催できず、今回のオンライン講演会となりました。まず、社会総合研究所の近藤 一仁(客員教授)が、「IRの新潮流～ESG投資について～」の講演を行った後、地元岡山の老舗企業であるオルバヘルスケアホールディングス(旧カワニシホールディングス)の前島 洋平代表取締役 社長から「社名変更と企業理念共有」というテーマでご講演いただきました。岡山商科大学の各学部学生からの参加に加え、岡山県内のビジネスパーソンや大学に近い上場企業の経営トップ(E・Jホールディングス 小谷 裕司代表取締役 社長)にもご参加いただき、盛況な「IR講演会」となりました。

「IRの新潮流～ESG投資について～」では、IR(インベスター・リ

レーションズ:上場企業とステークホルダーとの信頼関係の構築)の基本的な解説に加え、我が国のIRの発展史とその新潮流である「統合報告書のブーム」の背景、統合報告書とは何か、企業の財務情報と非財務情報(ESG:環境・社会・コーポレートガバナンス)の重要性、ESGを守りつつ、しっかりと経営してきた我が国の老舗企業(100年以上)の社是・社訓(クラボウ等々)の解説、最後に岡山県内の上場企業25社(岡山にルーツのある企業含む)のHPや統合報告書発行の状況説明、最後に、学生諸君に向けては、コロナ禍で企業IR情報(ESG)を活用する『IR就活の勧め』等と内容満載の講演がありました。

また、2021年1月に社名を「オルバヘルスケアホールディングス」(旧カワニシホールディングス)へと変更したばかりの前島 洋平社長から、創業100周年を節目に社名変更に取り組み、新社名を「OLBA」(地域のヘルスケアにおいて、人と技術がつながり、一つの円になる未来を目指し、企業グループの軌道を示す)とした想いや経営理念、業績や中期経営計画、SDGs、ESG等が語られました。

最後になりますが、上場企業、非上場企業を問わず、企業IR情報を大事な就活にも積極的に活用し、就職して3年で会社を辞めるような事がないように、公式HPの閲覧と分析を通じた『IR就活』をぜひ心掛けて欲しいものです。(社会総合研究所 客員教授 近藤一仁)

# Asia Report アジアレポート

## 孔子学院便り

岡山商科大学孔子学院は2007年に創立して以来、中国語教育及び中国文化の理解とその普及に努力を積み重ねてまいりました。これまでの歩みは多くの方々のご支援があって初めて実現できたものであり、関係の皆様方に心より御礼を申し上げます。2020年度には下記の通り、事業を展開しました。

### 1.中国語教育

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、孔子学院の中国語講座は例年より遅くなり、5月11日からオンラインの形で始まりました。その後、全国の感染緩和の状況に従い、6月1日から本来の対面授業に戻りました。今年度の中国語講座は前年度と同じく入門、初級、中級、上級と上級会話、個人レッスン、子供向けコースなどに分けており、年間32クラスを設けました。

### 2.文化イベント

コロナ感染症が発生する前のイベントを入れて、今年は全部で8回のイベントを行いました。中国語朗読大会、文化講座、附属高校留学生との交流会など、延べ610人の方々に参加していただきました。

特に初めてZoomによる中国語教育研究会を開催しました。

テーマは「日中ビジネスコミュニケーションの課題と対策」で、広島大学の盧濤教授を招き、日中ビジネス活動の歴史と現状を踏まえ、今後の日中ビジネス交流実践の可能性について述べていただきました。

### 3.中国語ラジオ講座と遠隔講座

RSKでの中国語ラジオ講座はすでに13年目に入り、今年の話題は「案内サインで中国語を覚えよう」でした。もう一つのラジオ講座RadioMOMOでは今年「都市シリーズ」というテーマで展開して中国の都市文化を紹介しました。2局で行うラジオ講座は合計76回、視聴者の範囲は百万人以上に及びました。

その他、今年も継続して津山商業高校に対し、遠隔文化講座を10回にわたって行いました。

### 4.その他

日本ではまだコロナ感染症が流行していなかった初期には、中国駐大阪総領事館からの中国人留学生への「健康支援小包」を配布し、また、岡山商科大学において中国への募金活動を行い、日中友好協会を通して、中国大使館に寄付しました。

(孔子学院 副学院長 李燕)

# キャリアセンター便り

## 2021年3月卒学生の就職活動を振り返って

2021年3月卒学生から就職・採用活動日程のルールが政府主導となり、昨年まで続いていた学生優位である「売り手市場」が、今年度においても続くと思われていました。しかし、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が大きな影響を及ぼし、学生たちは例年とは違う就職活動を強いられることとなり、今年度の就職活動は大変厳しいものとなりました。

昨年1月に新型コロナウイルスのニュースが報道されてから感染は瞬間に広がり、4月には緊急事態宣言が全国に発令され、本学もそれを受けて学内への立ち入りが自粛となりました。5月末には緊急事態宣言が全面的に解除されましたが、本来であれば3月の就職活動解禁、6月の選考開始という流れが、感染拡大によって各企業の採用活動が一時ストップしてしまったのです。政府はこのような状況による就職氷河期の再来をなんとか回避するため、各関係団体に対してインターネットを活用した会社説明会や採用試験の実施、エントリーシートの提出期限の延長の配慮、採用選考活動の柔軟な日程の設定などを要請する異例の事態となりました。

3月から頻りに開催される合同企業説明会は次々に延期や中止となり、各企業は採用スケジュールの大幅な変更やWEBツールの導入などの見直しが早急に求められました。そこで感染予防対策のために、採用活動を対面からオンラインに切り替わるといった新しい取り組みが展開されました。就職情報サイトを運営する(株)ディスコ(キャリアスタリサーチ2021年卒採用マーケット分析)によると、今期からWEBセミナー(会社説明会)を実施した企業は70.3%に上り、WEB面接においては4社に3社が導入し、学生の受験率は昨年の19.7%から約4倍の78.5%と劇的に伸びたとのことです。各就職支援業者も学生と企業の出会いの場をなんとか作るべく、7月頃から合同企業説明会等のイベントを再開させました。感染予防対策としてイベント規模の縮小や入場者数の制限、企業ブースでは学生の着席数を設定、会場によっては対面をハイブリッド(対面とオンラインの併用)に変更し、当日参加できない学生に対してはLIVE配信を行うといった取り組みが行われました。

このことは当然ながら本学にも影響があり、5月末時点での就職内定率は40.3%と昨年同時期(43.2%)にほぼ近い数字であったものの、6月末56.5%(昨年70.6%)、7月末67.9%(昨年81.6%)、8月末72.9%(昨年87.4%)となり、6月以降の内定率の推移は、売り手市場の前段階である3~4年前の推移になってしまいました。採用枠の縮小や採用活動を中止する企業が幾つか見受けられ、急激な業績悪化のために内定が取り消しになってしまった例もありました。今年度の特徴として挙げられるのは、内定基準のボーダーラインと思われる学生がことごとく内定を獲得できなかったことでした。これらのことが内定率の伸び悩みにつながったと言えます。しかし、このような厳しい状況であっても早期から就職活動を行

い、複数の企業から内定を得ている学生も多数いました。これについては企業側もなんとかして学生との接点を持つと、就職活動解禁前に実施したインターンシップの参加者にアプローチをかけ、感染予防に努めながら個別に選考を実施するなど積極的に動いたからです。

本学キャリアセンターの取り組みとしては、感染拡大の中で予防対策をしながら採用活動を実施している企業の情報を学生個々に提供し、就職活動をなんとか継続できるように支援しました。また、WEBによる就職活動は時間や場所の制限がなく、より多くの企業と接触することができることから積極的に参加するように指導しました。キャリアセンターでの窓口対応や対面での個別面談は極端に減ってしまいましたが、その代わりに頻りに電話やメールで連絡したことで、昨年以上に学生個々との関係を深めることができましたと実感しています。このような地道な取り組みによって、2月末時点での就職内定率は97.8%と昨年同時期(98.7%)の内定率に近づくことができました。このことは我々の取り組みもありますが、やはり学生自身の頑張りがこのような結果に結びついたのではないのでしょうか。慣れないWEB面接に「自分らしさを企業に伝えることができるのか」「面談中に通信トラブルが起きたらどうすればいいのか」という不安を感じながらも、移動時間や交通費を節約できることや、緊張せずに自宅で面接を受けることができることをメリットとして捉えて、このような「新しい就活様式」に順応しようと努力したからだと思っています。

現在も新型コロナウイルスの感染は続いていますが、多くの企業は2022年3月卒学生に目を向け、業界研究のオンラインイベントへの参加やインターンシップを実施し、来年度の採用をスタートさせています。この感染がワクチンによって収束に向かえば、経済活動がある程度回復されると予測されますので、企業が新卒採用を大幅に縮小することはないと考えられています。しかし、先行き不透明な経済状況の中で、必要以上に多くの採用をしないということも予測できます。また、都市部の大手企業の採用枠縮小の影響によって地方へのUターン学生が増える傾向にあることから、地元企業の採用基準のハードルが少し上がっています。このことは既に本学の学生にも影響が出ており、県外学生が地元企業の採用試験を受ける割合が増えていると企業側から聞いています。

本学キャリアセンターとしては、今期はインターンシップ参加者が比較的有利だったことを踏まえ、2022年3月卒学生にはインターンシップなどの就活準備イベントへ積極的に参加するように指導しています。また、今後は就職活動のオンライン化が進み、コロナ収束後は対面とのハイブリッド採用が主流になると考えられるので、オンライン就職活動に対する就職指導をガイダンスに取り入れていこうと考えています。

(キャリアセンター)

## Information 情報アラカルト

### リフレッシュダンス教室について

2020年度前期のリフレッシュダンス教室はコロナ禍により、本学会場での開講を見合わせておりましたが、自宅でもダンスを学びたいのご要望をいただき、講師のお手本を映像として収録したDVDを制作いたしました。

DVDは、ストレッチやエアロビクスを取り入れ、教室で行うレッスンを映像におさめた「リフレッシュダンス」、健康体操や頭の体操を取り入れた「脳トレダンス」の2種類をつくり、外出自粛の中でも一人でも多くの方に健康づくりの機会をお届けできるよう、努めました。

また、11月より、マスク着用や検温、問診票記入、ソーシャルディスタンスの確保、換気等、感染防止策を講じ、従来の開催場所よりも倍の大きさがある体育館1面を使用して本学会場での教室を再開いたしました。第3波が岡山でも大きく影響し、開催日を延期せざるを得ない状況ともなりましたが、春が近づくにつれ、感染者も落ち着いてきたため、本来の日程を2日間ほど延長し、3月中旬まで開催しております。

開催初日には、受講者の方同士で「久しぶり!」「元気だった?」と笑顔でお話をされ、生き生きと体を動かされている様子に、対面で開催して良かったとほっとするとともに、面と向かって会える・話せる喜びを感じました。その後、受講者の方も増え、現在では12名の方が教室に通っております。

来年度の教室もwithコロナの体制で開催する予定です。つつい固まってしまう昨今の状況ですが、動くことで心も体もリフレッシュできるのが本教室の良さです。随時ホームページに開講日時を掲載いたしますので、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

(※) コロナ禍により、大学がオンライン対応となった際には開催日を延期いたします。

(社会総合研究所)

## 2020年度部活動戦績

(学生課)

サークル名	氏名	学年	大会名	種目 種別 階級等	結果	出身校
弓道部	男子団体		第66回中四国学生弓道選手権大会代替試合	団体	2位	
	女子団体		第66回中四国学生弓道選手権大会代替試合	団体	3位	
硬式野球部			2020年度 中国地区大学野球秋季二部リーグ戦	団体	2位タイ	
	藤原 楓大	2年		個人賞	首位打者 敢闘賞 ベストナイン (一塁手)	鳥取城北高校 (鳥取)
	森清 友貴	2年		個人賞	ベストナイン (遊撃手)	学芸館高校 (岡山)
	河野 翔夢	2年		個人賞	ベストナイン (外野手)	八幡浜高校 (愛媛)
ゴルフ部	田口 咲春	2年	第45回中四国女子学生ゴルフ選手権	個人	優勝	明德義塾高校 (高知)
	福島 せる	1年		個人	3位	高知中央高校 (高知)
	荒谷宗之介	2年	第37回中四国学生ゴルフ王座決定戦	個人	3位タイ	如水館高校 (広島)
	田口 咲春	2年		個人	優勝	明德義塾高校 (高知)
	神崎 絢加	1年		個人	3位	岡山南高校 (岡山)
卓球部	孔 英儒	4年	全日本学生選抜強化大会	個人	出場	出雲北校高校 (島根)
	木村 麻希	2年		個人	出場	岡山商大附属高校 (岡山)
	三上 裕太	2年		個人	出場	松山商業高校 (愛媛)

サークル名	氏名	学年	大会名	種目 種別 階級等	結果	出身校
ボウリング部	藤原 智也 近藤 雄太 高橋 兎大 川崎 未来 大西 蓮 大園 琢矢 川下 祐生	4年 4年 3年 3年 3年 2年 2年	文部科学大臣杯第58回全日本大学ボウリング選手権大会	男子団体 (5人チーム戦)	優勝 (2年連続3回目)	能登川高校 (滋賀) 春日井南高校 (愛知) 新田高校(愛媛) 和歌山北高校 (和歌山) 高松東高校 (香川) 九州文化学園 高校(長崎) 高松東高校 (香川)
	川崎 未来	3年	第52回全日本大学個人ボウリング選手権大会	男子個人	6位入賞	和歌山北高校 (和歌山)
陸上競技部	西岡 海	3年	第43回中国四国学生陸上競技選手権	110mH	優勝	豊岡総合高校 (兵庫)
	矢吹 陸空	1年		1000mW	2位	岡山商大附属 高校(岡山)
	山崎 琢心	2年	第30回岡山学生陸上競技選手権	走高跳	3位	東岡山工業 高校(岡山)
	福田 亮太 武久 翔 斎藤 城納 中野 史貴	1年 2年 1年 2年		1600mR	優勝	開星高校(島根) 商大附属高校 (岡山) 隠岐高校(岡山) 倉敷翠松高校 (岡山)

## 吉備学園コンサートについて

2021.2.14

2月14日岡山市立市民文化ホールにおいて「吉備学園コンサート2021」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症対策のため保護者と学園関係者に限定しての開催となりましたが、当日は、天気も良く100名近い方々にご来場いただきました。

今回できるだけ人との接触を少なくするため司会をはじめすべて現役部員だけによる演奏になりました。1部は高校生による演奏、ミュージカル女優を目指す附属高校2年川上さんの独唱、2部は大学生の演奏、高校生と大学生の合同演奏の2部構成で、吹奏楽のオリジナル曲、マーチ、昭和アイドルコレクションメドレー、など幅広いジャンルで昭和から令和までの名曲を演奏しました。昨年のように卒業生を交えた大編成の迫力あるサウンドを響かせられませんが、若さ溢れるサウンドでご来場いただいた方々に元気を与える事ができたと思います。

今年度は予定されていた演奏発表の場がすべてキャンセルになり初の本番になりましたが、プログラム構成、司会、そして大学生の演奏では指揮をすべて学生が担当するなどコロナ禍だから経験できたことも多くあり、これまでにない達成感を味わうことができたコンサートになりました。

来年も2月に開催予定です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

(経済学部 講師 石原 憲)



## ボウリング部優勝報告

(2020.12.3 於:学長室)

2020年11月27日(金)から30日(月)まで神奈川県にある川崎グランドボウルで開催されました文部科学大臣杯第58回全日本大学ボウリング選手権大会において、本学ボウリング部の男子が2年連続3度目の優勝を果たしました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で2度も部活動の活動自粛期間があり、大会2週間前の大切な時期にも活動ができませんでした。さらに本大会では感染対策を行っての開催となり、チーム内でのハイタッチの禁止や大きな声での会話などが禁止され、初めは選手に戸惑いや不安がありました。

しかし、それぞれが目標を持ち全員が優勝するという気持ちで準備をしてきたことが自信につながり、練習の成果を十分に出したのではないかと考えています。

本学ボウリング部は2018年度に史上4校目となる男女アベック優勝を果たしましたが、近年では競技人口の減少により女子部員の確保が困難であることから男子のみの活躍となっています。

今後の目標としては女子部の部員確保及び強化を行い、優勝できるチーム作りをしていき、男女アベック優勝ができるよう練習に励んでいきます。

(学生課)



## 学科の窓

### 法学科からのお知らせ

法学部では、希望の進路に合わせて「公務員コース」と「企業コース」を設け、それぞれの学生が将来の進路で活躍するために必要な知識を効率的に得られるようにしています。また、学生は各学年に配当される演習（ゼミナール）を必ず履修することとして、必要に応じて担当教員から指導を受けられる体制を整えています。

とくに近年では、公務員志望の学生が多く在籍していることから、法学部では、公務員採用試験に向けた指導體制を強化しつつあります。警察官・消防官・市町村役場（教養試験）を対象としてキャリアセンターが運営する対策講座のほか、課外授業として法学部独自に、国家・地方公務員の一般行政職を目指す学生を主な対象とした公務員試験対策講座を開講しています。その他、「self-development room（自己開発室）」を設置し、学生が希望の進路に向けて自習に努められる環境を整備するとともに、専任教員が学生（主に公務員・教員志望者）向けに補習授業を開講しています。これからも、比較的規模の小さな学科という特徴をいかし、学生一人ひとりにきめ細やかなケアをしてまいりたいと思えます。（法学科教学委員 白井 諭）

### 経済学科からのお知らせ

今年度は新型コロナウイルス感染症による影響により、日常生活が様変わりしたことかと思えます。大学生生活も同様で感染症対策のため、教室内の人数制限や換気をはじめ、アルコール消毒など、日々の生活が少なからず制限されることも多々ありました。経済学科では予定していた新入生宿泊やプレゼン大会の中止など、通常行われていた行事が中止や変更となり、特にそれらに関わる学生にとっても大変残念な思いだったかと思えます。その中でも有志の学生による発案・企画で、基礎演習（2回生）のいくつかのゼミでは、小規模ながらZoomにてプレゼン大会を実施いたしました。また4回生（卒業生）の就職状況においても例年通りの就職率98%（2021年3月4日時点）を達成し、さらに4回生（卒業生）の中から東京大学大学院経済学研究科への合格・進学を決める学生も出てきました。このような状況下であるからこそ、私たち教員も学生に負けず、更なる学生教育に邁進してきたいと思えます。今後も皆様方のご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。（経済学科教学委員 井尻裕之）

### 経営学科からのお知らせ

経営学科では、「岡山経営者論」や「税理士による租税講座」といった外部講師をお招きして実際の実務について学べる講義を設けています。本年度は、新型コロナの影響で、前期に開講した「岡山経営者論I」は例年通りの内容を実施することができませんでしたが、後期に開講した「税理士による租税講座」は大部分が対面講義で実施できたので、外部講師の先生に質問をするなど活発な講義が実施できました。次年度もこれら講義は開講されますので、興味がある人はぜひ、受講してみてください。

ところで、2021年度より「教養科目」が「一般教育科目」という名称に変更されます。その変更に伴い、一部科目で名称変更が行われました。とりわけ、外国語科目や健康教育科目の名称が大幅に変更されましたので、2020年度以前入学生の人は、履修のさいに注意してください。詳しい内容は、『学生便覧』でご確認ください。（経営学科教学委員 内田浩徳）

### 商学科からのお知らせ

商学科では、教室での学びを地域で実践するフィールドスタディを実施しています。2020年度は、新型コロナウイルスの影響により実施できなかった活動、あるいは規模を縮小して実施した活動が多くありましたが、2021年度は、新しい生活様式に対応した形で実施していく予定です。フィールドスタディは、授業として実施するもののほか、ゼミや有志による活動として実施されるものなど多様なプログラムが用意されています。実施に際しては担当教員から連絡がありますので、興味のある活動に参加してみてください。

また、2021年度より「教養科目」が「一般教育科目」に変更されます。2020年度以前に入学した在学生の皆さんについては、カリキュラム上の変更はありませんが、科目の名称に変更がありますので、履修の際にはこのことに注意してください。科目の履修について、何かわからないことがあれば、演習の担当教員まで相談してください。（商学科教学委員 大石貴之）

## 家計の急変等があった学生の学業継続支援について

本学では、2020年度に新型コロナウイルス感染症の影響で、家計が急変した世帯の学生を支援するための授業料減免制度を新設しました。2021年度においても、同制度を継続して実施する予定としています。

また、日本学生支援機構の、緊急特別無利子貸与型奨学金および高等教育の修学支援新制度、貸与型奨学金の随時申込受付を行っています。

意欲のある学生が、経済的理由により修学を断念することがないように、引き続き支援をしていきます。

詳細につきましては今後、随時大学HP等でお知らせいたしますが、不明点やお困りのことがありましたら、学生課までお問い合わせいただけますようお願いいたします。（学生課）

## 学生への貸し出し用タブレットPCの整備

2020年度は、日本中が新型コロナウイルスのまん延により、従来の活動様式を大きく変える必要に迫られました。教育においては学生の負担を少なくするために本学では、学生教育用のPCを整備することを進めてきましたが、登校できない状態となり対面授業から急遽オンライン授業（オンデマンド型、Zoom等による双方向ライブ型）に変更することに迫られました。本学では2017（平成29）年度に「講義案内システム」を導入し、学生への一括資料配布、学生からのレポート送信、WEB履修を可能にしています。状況の変化で全学生が一斉にアクセスした場合に対応できるのかを懸念しましたが、教員への使用条件を設定することで、問題なくオンライン講義を実施できています。

しかし、学生に各自PCを所有するよう指導をしていなかったために、オンライン授業への対応ができるのか不安でしたが、電子媒体で全て情報の交換をすることで、何とか全学生からレポートの提出ができたときには、少し安心しました。しかし在学生のアンケート調査から25%程度の学生はPCを所有していないことが判明しました。ちょうどその時、文部科学省からの補助事業で、学生への貸し出し用PCの事業の公募が始まったので、すぐに学生の勉学意欲の向上のために70台で申請し、10月下旬に採択の決定がありました。

このタブレットPCを学生に貸し出すために、在学生、新入生への希望調査を行ったところ、在学生の要求は1%程度、新入生は20%程度でありましたので、70台を区分して学生に貸し出す準備ができました。学生の要求には100%対応はできていませんが、今後は社会環境が激変しても教育ができる体制を構築するとともに、学生にmy-PCを持つように指導をしていく予定です。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。（副学長 大崎 純一）